



# 身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2023.6.8

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)(雨天は小雨でも中止)  
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

2023年7月までの石神井川観察は、6/23(金)、7/13(木)、7/28(金)  
9:30JR社宅(イーストハイム)前街路観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋から再出発

## 春が再来、でも、秋もやってきた！ いよいよおかしいぞ！



←春の早い時期から咲いていたイヌムギは実になって枯れ姿。一方、新しい株が立ち上がり、これは今年2期目の開花。今年中にあと



何回か再出現と開花を繰り返しそうです↑



←オランダミミナグサはコハコベにとって替わられたはずなのに再開花。

毎年、秋が深まった11月ごろから咲き始めるキュウリグサ。咲き始めのしなやかな冬姿で再登場→



←ノボロギクも通常では今頃消えているはずなのに春の再来。

かと思うと、あちこちにエノコログサ。これは秋の花。どこでも咲いています→  
写真での紹介はないけれども、



「秋の引っ付き虫」の代表コセンダングサも咲いています。

# 露地むきだしの地面から出てくる草はどんなもの？



帝京大学病院北側の新歩道は、他の土地から持ち込まれた土からいろいろな野草が出てきます。それを「雑草・敵」だと思っている人はこれが我慢できないようです。「自主草刈り」をして刈った草を投げ捨ててい

くものだから、かえって汚い。でも、その「おかげ」でチチコグサが顔を出しました。これは珍しい！ しかし、この「自主草刈り」の人は、これも無情に刈り取ってしまうのでしょう。

## 野草を敵視した徹底草刈り → 強い草の展開 → また、草刈り この無駄と自然破壊の循環はいつまで続くのだろうか？

別の場所では、造園業者による草刈り後2週間もたっていないのにヤブガラシがあちこちに新葉を展開、オカメザサは力を増して新芽を伸ばしています（下の左と中）。

2週間前は1輪しか花を付けていなかったハキダメギクはその後ぐんぐん生長。そのほかスズメノカタビラなど生命力が強い野草がまた地面を覆い始めました。ネジバナやキキョウソウ



は消えました。



## これらの植物が悪いのではありません

「みどりと文化のまちづくり」を標榜している行政が、みどりといえば植栽された街路樹かきれいな花の花壇しかイメージせず、まちなかを彩る自然の植物に気をやらないことが問題なのです。いまのままでいけば、自然による異変より先に、人による破壊が進み、まちなかは園芸植物の花壇だけしか残らなくなるでしょう。「みどり」に対する考え方の180度転換が求められています。

**お仲間が川面を見て「アッ、スッポンだ」  
久しぶりの発見！  
でも、親のつがいは見えませんでした→**

